

平成29年第4回（9月）掛川市議会定例会
一 般 質 問 発 言 順 序

- | | | |
|---|-----|--------|
| 1 | 14番 | 窪野愛子君 |
| 2 | 5番 | 松浦昌巳君 |
| 3 | 9番 | 藤澤恭子君 |
| 4 | 2番 | 藤原正光君 |
| 5 | 3番 | 嶺岡慎悟君 |
| 6 | 7番 | 勝川志保子君 |
| 7 | 8番 | 富田まゆみ君 |
| 8 | 11番 | 松本均君 |
| 9 | 20番 | 鷺山喜久君 |

平成29年第4回(9月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

9/13 AM 14番 窪野愛子君

5番 松浦昌巳君

PM 9番 藤澤恭子君

2番 藤原正光君

3番 嶺岡慎悟君

9/14 AM 7番 勝川志保子君

8番 富田まゆみ君

PM 11番 松本均君

20番 鷺山喜久君

一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	窪野愛子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 共生社会実現を目指した障がい者の社会的障壁の除去について

(答弁：市長)

乳幼児期から高齢期まで、障がいのある当事者や家族に寄り添う、切れ目のない支援体制の構築が急務である。今後、児童発達支援と障がい者就労支援等を一体的に取り組んでいくことで、障がい者の社会参加を促し、社会的障壁の除去につなげていくことができるのではないか。そこで、広報6月号に「松井市長3期目の抱負と戦略を語る」で掲載された「こども発達支援センター設置による発達障がいに対する切れ目のない支援と理解の普及」のために、今後どのような取り組みをするのか。また、災害時や非常時における障がい者への支援の取り組みについて伺う。

- (1) 共生社会実現には障がい者への理解を深めることが必要である。昨年4月に「障害者差別解消法」が施行されたが、市民への普及・啓発への取り組みについて伺う
- (2) 災害時や非常時に意思の疎通が図りにくい知的障がい・発達障がいの方への配慮として、緊急連絡先や必要な支援内容が記載された「ヘルプカード」を導入する考えはないか伺う
- (3) 乳幼児期から高齢期まで切れ目のない支援を行うために、市民協働による総合発達支援センターを開設し、関係窓口の一本化は図れないか伺う

2 文化財を活かす歴史まちづくりに向けた「松ヶ岡修復計画」について

(答弁：市長、教育長)

江戸時代末期の御用商人山崎家の住宅「松ヶ岡」を本市は平成24年に購入し、すでに6年が経過する。その間「松ヶ岡保存検討委員会」を立ち上げ、保存活用について様々な観点から議論検討がされ、平成26年10月に検討委員会から最終報告書が提出された。現在は検討委員会から発展、移行した「松ヶ岡プロジェクト推進委員会」が組織され、寄附や募金活動を実施している。また、多くの市民ボランティアが月1度の清掃や啓発活動を行っているが、築160年の建造物は老朽化が著しく、保存修理は喫緊の課題である。そこで、松ヶ岡の修復と掛川銀行復元をマニフェストに掲げる松井市長に以下について伺う。

- (1) 平成24年に松ヶ岡を購入するにあたり、当時市内ではどのような議論があっ

たのか伺う

- (2) 松ヶ岡の修復や掛川銀行復元の財源は、寄附金や募金、国の交付金で捻出するということが、事業計画は予定どおり遂行できるのか伺う
- (3) 第2次掛川市総合計画には、松ヶ岡を「今までの文化財にはない、市民協働によるモデルケースとして、維持管理運営方法を構築する。」とあるが、今後、市民の理解や協力を得て計画を実行するために、どのような取り組みをしていくのか伺う
- (4) 松ヶ岡の保存・活用については、社会教育課、文化振興課、都市政策課がそれぞれ所管・関与している。事業の効率化を図り、庁内関係課を横断的に統括し、掛川流協働力を発揮するために、事務局をシティプロモーション課に移管する考えはないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	松浦昌巳	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

1 国際交流とシティプロモーションについて (答弁：市長)

平成29年8月1日現在の掛川市の人口は117,864人、そのうち外国籍の方が3,868人である。今後は、さらに外国籍の市民へのアプローチが必要だと考える。

これから日本では、2019年にラグビーワールドカップ、2020年に東京オリンピック・パラリンピック、2021年に関西ワールドマスターズゲームズと3年続けて世界規模のスポーツイベント（これらを総称してゴールデン・スポーツイヤーズという）が開催される。この3年間は世界各国から選手をはじめ応援団が来日する。

おもてなし委員会やシティプロモーションなど掛川市の施策におけるPRはもとより、国際交流活動を充実させることは、掛川市に住む外国籍の市民が掛川市をPRしてくれることや、さらには定住者を増加させることにもつながると思うが、市長の所見を伺う。

- (1) 市民や市外の人たちにより掛川市をPRするためにシティプロモーション課が設置されたが、現在の成果と展望を伺う
- (2) 先日行われたラグビーテストマッチでのおもてなし委員会の取り組みについて伺う
- (3) 海外からのお客様に掛川市を知っていただくためには、掛川に住む外国人が自分の体験や思いをSNS等で周りの友達や母国に情報発信してもらうことが一番だと考えるが、所見を伺う
- (4) 国際交流のイベントでは多くの参加者が集い、それぞれの国で特徴ある催しが行われるが、ゴールデン・スポーツイヤーズに合わせて、市独自に国際交流スポーツフェスティバルを開催できないか伺う

2 掛川茶振興について (答弁：市長)

平成29年度の1番茶、2番茶は多少の遅れはあったものの、例年並みに販売された。一見、生産農家も一安心に思えるが、茶期が長かったことから経費は例年以上にかかり利益率は昨年以下の農家が多いのが現状である。掛川といえばお茶というイメージが強い割には、お茶の消費が伸びていない現状もある。さらに小学生が学校に持ってくる水筒の中身は緑茶より麦茶が多いことが分かった。静岡県でも製茶条例の廃止に向けての動きがあるなど、茶業振興を改めて考えること

が必要だと考える。今後の掛川茶振興について、所見を伺う。

- (1) 掛川茶の販売促進に伴う国内、国外での取り組みと課題を伺う
- (2) 今後10年、20年先の茶業振興を考えて、市内の幼稚園、保育園、小・中学校（園児、児童、生徒、保護者）に対して、どうすればお茶をもっと飲んでくれるのか等、正直な意見を聞く調査を行えないか伺う

3 掛川教育のPRと教育環境の改善について （答弁：市長、教育長）

平成29年度全国学力・学習状況調査において、静岡県及び全国からみても大変素晴らしい結果であった。今後も掛川の特徴を生かした自己肯定感が高い子どもたちを育てていただきたい。そして、「学力向上」「学園化構想」などの掛川教育は掛川の魅力の一つだと考える。

さて、近年夏の気温上昇は異常である。2020年には学習指導要領が改正され、年間の授業時間数が35時間増加する。仮に、夏休みを短縮して授業時間数を確保していくことになると、7月・8月の高温時にも暑い教室で授業を行うことになる。そこで以下の4点について伺う。

- (1) 2020年から学習指導要領が改正されるが、年間どのような時間割で授業が行われていくか伺う
- (2) これまで教育委員会に報告されている中で、授業中に熱中症で調子が悪くなった児童、生徒、教師がいたか伺う
- (3) 人口減少を食い止め、さらに転入人口を増やす方策として、市内小中学校へのエアコンの設置が必要と考えるが、所見を伺う
- (4) さらに、子育て世代や若者が住みたくなるように、掛川教育の魅力を広く発信するべきだと考えるが、所見を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	9	氏名	藤澤恭子	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	------	-----------------

1 南部海岸線の活用と活性化について (答弁：市長)

南部海岸線は現在、海岸防災林の整備が進められているが、東日本大震災以降、どうしても津波などのマイナスイメージが払拭できず、人口減少や土地利用の低下が否めない。しかし、本来は風紋が美しい白砂青松の海岸線をもち、ウミガメも産卵に訪れ、サーフィンや釣りでも有名な素晴らしい観光資源でもある。これらを活かすとともに温泉や公式戦のできるビーチバレーコートなど、既存資源の有効活用や、保全などについて伺う。

- (1) ジャパン・ビーチバレーボールツアーの誘致や、オリンピックの合宿誘致について掛川市としての取り組みを伺う
- (2) サーフィン、釣り、観光地引網などの有効な観光資源をプロモーションし、PRすべきではないかと考えるが、見解を伺う
- (3) 斜め海岸林の保全と砂地農業の振興を合わせて、日本農業遺産を目指してみてはどうかと考えるが、見解を伺う
- (4) 既存の資源を有効活用し、交流人口増加に力を入れるべきと考えるが、南部沿岸部の振興計画策定について、市長の所見を伺う

2 掛川流子育てについて (答弁：市長)

子育て日本一を目指す掛川市にとっては、掛川流子育て応援策として、次世代の掛川を担う子どもへの事業は重要であり、急務である。

また、近年の女性の社会進出は目ざましく、誇れることだと思うが、同時に待機児童問題など新たな社会問題も起こり、そちらにばかり目がいきがちである。

一方、家庭内で子育てをしている女性も尊く輝かしい存在である。そこで、子育ての中でも特に重要な0歳から2歳までの家庭内保育の大切さと支援施策について所見を伺う。

- (1) 本年度の重要施策に「掛川流子育て応援事業」があり、本年度から3年間の計画で「スキンシップのすゝめ」の研究をしていくとある。施策、研究の対象を幼少期のみとするのではなく、思春期まで対象を広げる等、長期的な視野が必要と考えるが、見解を伺う
- (2) 0歳から2歳までのスキンシップが大切なので、在宅子育てを尊い仕事と認識し、これへの応援として、例えばファミリーサポートの利用券の配布など、

お母さんにリフレッシュしてもらえるような支援策があればいいと思うが、いかがか

- (3) 市長は、市民の参画が重要だと言っているが、ワークショップ（WS）などで直接子育て中の家庭の声を聞き、生きた市民の意見や現状把握をすることは、まさに掛川市が進める協働の第一歩である。定期的にWSなどを開き、出た意見やアイデアを活かした施策を展開すべきと考えるが、市長の所見を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	藤原正光	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 避難しやすいまちづくりの構築について (答弁：市長)

不自由な生活を強いられる避難所において、誰もが安心して、いかに自分らしい生活を送ることができるかということは大切なことである。健康を維持できるような「避難所の質の向上」を目指す必要がある。

平成28年4月に発生した熊本地方を震源とする一連の地震では、最大震度7の揺れを2回続けて記録する観測史上初めてのケースとなり、甚大な被害をもたらした。震災関連死と認定されたケースは直接死の3倍に上り、多くの課題が残された。この地震災害から浮き彫りになった課題について考えを伺う。

- (1) 福祉避難所の開設前の趣旨の周知と開設後の福祉トリアージ・移動・受入れについて、本市の取り組み状況を伺う
- (2) 福祉避難所において、要支援避難者の健康を守る横断的な取り組みが欠かせない。医療・保健・福祉・介護分野の職種や応援機関が連携する情報共有拠点の設置が必要と考えるが、見解を伺う
- (3) 熊本地震被災地支援として嘉島町に本市職員を派遣した。報告によると車中泊、テント泊などの避難所外の避難者への対応を考える必要があると指摘しているが、報告への対応を伺う
- (4) 広域避難所の対象地区とまちづくり協議会の区域が違う地区があるため、まちづくり協議会の防災計画を立てることに苦慮し、避難所運営に支障をきたす恐れがある。広域避難所の対象区域の見直しについて、見解を伺う
- (5) 指定管理施設は、災害時には市に返還し、避難した住民主体の避難所運営となるが、避難所の立上げ時期には様々な混乱が心配される。指定管理者との発災時の避難所立上げに関するルールや役割分担を、明確にしておく必要があると思うが、見解を伺う
- (6) 災害時に人的・物的応援を受ける場合、災害対策本部の各班が受援の担当窓口となるが、円滑に対応するためには、これとは別に受援に関する取りまとめ業務の担当が必要と考えるが、本市の受援体制について伺う
- (7) 昨年の総合防災訓練では、支援物資を全避難所へ輸送する手順も確かめられたが、その成果と課題について伺う
- (8) 在宅避難も進めている本市において、応急危険度判定作業が速やかに行われることが重要である。判定士は100名程度いると聞いているが、この人数で足りているのか、所見を伺う
- (9) 国土交通省国土地理院は、防災力向上に役立てることを目的に、災害時等に役立つ防災アプリの公募に取り組み、優れた機能を持つ防災アプリを選定して

いる。この防災アプリを利活用すれば、より迅速な避難を確保できると思うが、
見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	3	氏名	嶺岡慎悟	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 掛川三城ものがたりについて (答弁：市長、教育長)

昨年度、掛川三城ものがたりのDVDが完成し、本年4月には高天神城が『続100名城』に認定されたことを記念して、8月31日まで大東図書館にて、掛川三城ものがたり展が行われた。掛川市の観光資源として3城が連携し、それぞれが城下の地域を含め魅力を創出することが非常に重要である。そこで、次の点について伺う。

- (1) 掛川三城ものがたりの今後の展望について伺う
- (2) 掛川三城ものがたり展については、市の施設で常設するべきと思うが、教育長の考えを伺う
- (3) 高天神城下である土方地区には、観光情報を得る施設やお土産等を購入できる施設がない。高天神城の魅力創出、地域の買物難民解消のため、『(仮称)道の駅 高天神』の建設が必要だと思うが、市長の所見を伺う

2 掛川市職員の採用について (答弁：市長)

昨今、多様な行政課題の対処や人員削減により、職員は限られた人員の中でより効率的な処理を求められ、職員に求められる能力も多様化してきている。

また、掛川市は限定特定行政庁であり、建築主事を置かなければならないが、建築主事になるには、一級建築士を取得し、建築基準適合性判定資格者検定に合格する必要があるが、他の特定行政庁も建築主事の確保に苦慮している。

このような中で、優秀な人材確保のため、次の点について伺う。

- (1) 今後、民間企業経験者等の積極的採用を行う考えがあるか伺う
- (2) 民間企業経験者等が新規採用された場合、採用時の職務経験の配慮について伺う
- (3) 民間企業経験者等が新規採用された場合、昇格、昇給時の職務経験の配慮について伺う
- (4) 国家資格等取得の奨励制度について伺う
- (5) 建築主事手当について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	勝川志保子	質問の方式 (<input checked="" type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	-------	--

1 命と健康を守る福祉制度としての国民健康保険のありかたについて

(答弁：市長)

国民健康保険は、「社会保障及び国民保健の向上に寄与することを目的とし」(国民健康保険法) 社会保障制度として、無収入・非正規雇用・年金受給者など社会的弱者のセイフティーネットの役割を担っている。この性格上、市民の命と健康を守る福祉制度としての運用が不可欠である。来年度に迫る都道府県単位化という国民健康保険制度改変を前に、掛川市の現状と、今後の施策のありかたを伺う。

- (1) 国民健康保険は国民の命と健康を守る社会保障制度であると考え、制度に対する基本認識を伺う
- (2) 制度改変に伴う掛川市の国民健康保険税の見込みはどうか伺う
- (3) 国民健康保険加入者と税額が減少しているがこれはなぜか伺う
- (4) 掛川市は、軽減措置を行っているにもかかわらず、国民健康保険の滞納が数多く発生している。滞納の実態とその理由を伺う
- (5) 滞納者に対する資格認定証、短期保険証の発行の実態を伺う
- (6) 収納率の向上の取り組みにより、差し押さえが増加しているが、差し押さえの基準や実態について伺う
- (7) 福祉制度としての国民健康保険制度を維持するため、市民へのこれ以上の負担は行うべきでないと考え、いかがか

2 小中学校の教育環境整備について

(答弁：市長、教育長)

教育・文化日本一を掲げている掛川市だが、子育て環境が充実していると感じている市民は、市民アンケートによると4割程度にとどまっている。宝物であり、未来の希望である子どもたちによりよい環境を用意するのは大人の責任であり、政治の役割である。教育環境の整備について伺う。

- (1) 保護者や児童・生徒からの切実な声の寄せられているトイレの洋式化について、現状と改善計画や数値目標などを伺う
- (2) 学校保健法に基づく教室の温度の管理基準と、基準を守るための教室環境の把握の方法と対策を伺う
- (3) 保護者や児童・生徒の要望の高い教室内のエアコンの設置について、現状及び今後の計画を伺う

3 学校図書館整備について

(答弁：市長、教育長)

市の教育振興基本計画の中でも「豊かな心を育む読書活動の推進」ということで、学校司書の配置や、図書館の整備推進、蔵書充実等があげられている。確かな学力を保障していくためにも学校図書館の役割は大きい。学校図書館整備に関して伺う。

- (1) 国の「学校図書館図書整備等5カ年計画」と、市の計画である「掛川ほんわか（本輪架）プラン」の内容、数値目標と現在の進捗状況について伺う
- (2) 図書標準に対する蔵書数・学校図書館司書配置など学校図書館の現状を伺う
- (3) 地方交付税措置による学校図書整備費等の措置額とその予算化の現状を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	富田まゆみ	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	-------	-----------------

1 ごみ減量日本一奪還に向けた取り組みについて (答弁：市長)

地球温暖化や資源枯渇など、私たちに課せられた環境問題は急務の課題である。その大きな要因であるごみ問題。私たちの住む地球を安心安全なまちにするために、掛川市が掲げる「環境日本一」を成し遂げるためにも、ごみ減量日本一奪還は大きな第一歩である。ごみの総量を減らすとともに、可燃ごみの4分の1を占め、焼却に大きな負担をかけている水分の多い生ごみ対策とごみ減量への意識の高揚について伺う。

- (1) 掛川市ではさまざまなごみ減量対策を実施し、平成22、23年度には一人一日当たりのごみ排出量、ごみ減量日本一であったが、以降は小金井市にその座を譲っている。ごみ量の推移と2位となっていることへの評価・分析について伺う
- (2) 事業系のごみが増えているが、どのような業種からの排出が多いのか、またその対策について伺う
- (3) ごみ減量には、一人ひとりの意識改革が必要である。そこで、現在市内小学校4年生を対象に行われている環境資源ギャラリーでの環境教育を、中学生や区長会、区役員など多くの市民を対象にする考えはないか伺う
- (4) ごみの排出状況や処理に掛かる経費などを、広報や区長会などを通して定期的に市民に周知し、意識の高揚に努める考えはないか伺う
- (5) ごみ減量対策の一つとして、市が勧めている生ごみ処理機（コンポスト・生ごみパックン・キエーロ）を小学校の教材として各校に配付し、環境教育に取り組んではいかがか
- (6) 生ごみ減量に繋がる電気式のごみ処理機への助成が行われていない理由について伺う

2 高齢者が自立した生活を送るための支援について (答弁：市長)

超高齢社会を迎え、自立した生活を送ることは、市民誰もが願うことである。いつまでも生き活きと暮らしたい、多少足腰が不安になっても人の世話にならず、介護保険等も使わずに自立した生活を送りたい。そう考える市民も多く、そうした市民に対して支援を強化することで、介護費や医療費などの財政負担の軽減にも繋がると考える。「健康・子育て日本一」を掲げる掛川市だからこそできる、弱者に寄り添う支援策について、以下の点について伺う。

- (1) 市民の方が本庁を訪れたときにも、ふくしあのような関係部署をまとめたワンストップ対応の窓口が作れないか、所見を伺う
- (2) 介護認定や障がいの有無にかかわらず、高齢者が自立した生活を送るために、既存のリフォーム補助制度に加え、予防の観点から自宅への手すり設置やバリアフリー化など、住宅改修を行う場合の費用の一部を助成する補助制度を新設する考えはないか伺う
- (3) 高齢者の自立を促すための健康教室などが複数の課で実施されているが、横断的に業務の見直しを行い、業務効率を向上させ、市民サービスの一層の向上を図ることはできないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	松 本 均	質問の方式 (<input checked="" type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	--

1 ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックについて

(答弁：市長)

2019年ラグビーワールドカップがエコパで開催され、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される。そこで、掛川市としてこのビッグイベントへの取り組みについて伺う。

- (1) 2019年ラグビーワールドカップと、2020年東京オリンピック・パラリンピックによる、地域経済への経済効果は大きいと思うが、エコパへのショッピングモール施設整備の検討や宿泊施設の不足についてなど、さらに市民との国際交流や観光客対応、バリアフリーの対応など、「おもてなし」についてどう考えているか、現状の取り組みについて伺う
- (2) 県内他市でも推進委員会を立ち上げて、2019年ラグビーワールドカップと2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地誘致に取り組んでいるが、当市の進捗状況について伺う
- (3) 大会終了後、掛川市としては、市民スポーツの普及として、次のスポーツイベント等の誘致や大会の企画など考えていくのか伺う

2 中心市街地活性化について

(答弁：市長)

平成29年度市民意識調査での結果を見ると、満足度が低く優先度が高いゾーンに「中心市街地の活性化と公共交通網の充実」が挙げられた。満足+まあ満足は22.6%に対し、不満+やや不満は58.6%との結果について伺う。

- (1) 2年前掛川市議会において、掛川駅前西街区再開発検討特別委員会を設置し、検討したが、その後、進展が無いまま経過している。中心市街地活性化計画の目玉である掛川駅前西街区の今後について伺う
- (2) 掛川駅前通りは、古くから駅より掛川城等を結び人通りも大変多く、賑わいのシンボリック道路であるが、近年、駅前には鳥の被害が大変大きく、糞や羽による悪臭などは、地域住民や観光客にとって深刻な問題であり、早急に改善すべきである。掛川市としての取り組みについて伺う

一般質問通告要旨

議席番号	20	氏名	鷺山喜久	質問の方式 (一問一答・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 「戦没者を追悼し平和を祈念する日」について (答弁：市長、教育長)

8月15日に、政府や掛川市において、戦没者追悼式が開催されたが、太平洋戦争について、多くの市民が正しく認識し、また、子どもへ正しく教育していくうえで、所見を伺う。

- (1) 太平洋戦争が「聖戦」で「これは日本にとってやむにやまれぬ戦争だった。日本の戦争は正しかった。自存自衛とアジア解放の戦争だった。」と認識しているか教育長に伺う
- (2) 8月15日は、小中学校の夏休み期間中であるが、児童生徒には、この日の迎え方について、どのように指導しているか教育長に伺う
- (3) 掛川市戦没者慰霊碑「平和への道標」を市役所敷地内に建てる考えはないか伺う
- (4) 遺族会の継続・強化のため、協働のまちづくりの一環として、地区慰霊祭などの活動が必要でないか伺う

2 掛川特産葛布の産業化について (答弁：市長)

平成24年第4回定例会において、栗原通泰議員が「当市の伝統特産品である葛布について」質問し、市長から「平成22年度から平成24年度は、文化庁の補助事業に採択されており、葛布の技法の伝承や葛布の啓発活動をされ、大変期待しているところである。」と答弁された。また、「中小商工業活性化支援調査事業で課題の解決や消費の拡大を検討し、掛川の伝統産業として守り育てていきたい。」とも答弁されている。これらの事業成果等について伺う。

- (1) 平成24年度の掛川市中小商工業活性化支援調査事業において、どのような検討結果が得られたのか伺う
- (2) 平成22年度から平成24年度の文化庁補助事業の成果について伺う
- (3) 葛布をイタリアのペーザロ市などの姉妹都市と連携し、商品化できないか伺う

3 行財政改革審議会について (答弁：市長)

市長の諮問機関として、4期（平成21年から平成30年3月まで）続く行財政改革審議会について、市長に伺う。

- (1) 平成28年度末までの7年間で約630万円の費用が掛かっているが、具体的な成果について伺う
- (2) 行財政改革審議会の目的には、「元気で活力あるまちづくりを進めること」とあるが、具体的にはどのようなまちを目指しているのか伺う
- (3) 真の行財政改革とは、市職員のやる気を引き出し、市民のために仕事をし、負担は低く、サービスは高くすることではないのかと考えるが、いかがか